香川の野鳥を守る会
代表 曾根 俊二 様

香川県環境・水政策課
自然保護室 室長 関根 達郎〔私印〕

回 答 書

平成16年3月12日付けの要望書に添付された質問書につきまして、下記のとおり回答します。

記

- について

平成14年9月、栗林動物園の閉園に向けた休園表明があり、代替施設を望む県民の皆様からの要望もあったことから、子供達が動物とふれあうことのできる施設と傷病鳥獣の保護収容を行なう施設とを一体的に整備することを念頭に、整備場所、施設内容等について、検討を行なってきました。

一方、栗林公園動物園の県への土地返還に向けた作業の支障にならないよう、平成15年8月から、環境保健研究センターで傷病鳥獣の受付を行い、民間の動物取扱業者に保護収容を委託しているところであります。

こういう状況の中、平成15年10月、ニューレオマワールドにおいて、野鳥の森、ヤギやヒツジとのふれあいコーナーなど多様な施設を備えた動物園が整備される見通しとなり、これらの施設により、子供たちが動物とふれあえる場については、確保されるものと考えられることから、県による施設整備を行なう必要はないものと判断し、傷病鳥獣については、現行の体制を当面、継続することとしました。

- について

第9次鳥獣保護事業計画において、“鳥獣保護思想の普及や、傷病鳥獣の保護等の業務の拠点となる施設の設置に関する調査・検討を行なうものとする。”としています。

- について

ご指摘のような講習を受けた者が本県にいることは確認できませんでした。事故発生時には、環境省水鳥救護研修センターやNPO法人特定非営利活動法人野生動物救護医師会等と連携して対応することが考えられます。

- ~ について

ご指摘のニューレオマワールドの施設は、傷病鳥獣の飼養施設ではありません。本県の傷病鳥獣保護事業に係る施設は綾上町に存しています。

- について

選定に当たっては、下記項目に留意し、同社は委託先として適当であると判断しました。

- ・実 績：傷病鳥獣保護を行ってきた実績はないが、かつて旧レオマワールド内において、動物園等を経営するなど動物飼育に関するノウハウがある。
- ・収容設備：現社屋内には、飼育・保管スペースがある。
- ・所 在 地：鳴声や臭い等の関係で、住居地からある程度離れている。本県のほぼ中央に位置することで、受付（環境保健センター）にも比較的近い。

- について

傷病鳥獣の飼育に携わる人数は1～3名であり、獣医師免許所有者はいません。

- について
ご指摘のような鳥獣を扱ったことはないと聞いています。
- について
施設の敷地面積は500㎡であり、施設内容としては、鳥舎、飼育ケージ等があります。
- について
これまでの傷病鳥獣の収容実績から見て十分な施設であると判断しており、どれくらいの数まで収容可能であるかの推定は不必要なため行なっていません。
- について
収容された傷病鳥獣をどの鳥舎で収容するかは委託業者が判断すべきことであると考えますことから、そういう懸念はないものと考えています。当方が視察した限りにおいては、同一鳥舎、飼育ケージには入れていませんでした。
なお、最近、高病原性鳥インフルエンザの感染の有無について、環境保健研究センターで、保護された際に検査しています。

- について
契約により当該年度中の飼育義務を負うこととなります。契約の更新により、飼養し続けることとなります。

- について
保護数) 鳥類 51羽 獣類 2頭 計 53羽/頭
死亡) 鳥類 32羽 獣類 1頭 計 33羽/頭
継続飼養) 鳥類 15羽 獣類 0頭 計 15羽/頭
放鳥獣) 鳥類 4羽 獣類 1頭 計 5羽/頭

- について
傷病鳥獣が直接業者に持ち込まれたことはないと聞いています。持ち込まれることがあれば、県に報告するよう指導しています。

- について
収容個体の適正な管理については業務を委託している県において確認を行なうべきものであり、また、個体数チェックについては特に専門的な知見を必要とするものではないため、第三者によるチェックの実施については考えていません。

- について
下記のとおりです。

業務内容：県民等が保護した傷病鳥獣を収容し、適切な治療・給餌・回復訓練等を施す。

- ・傷病個体の受付場所からの引取業務
- ・治療・給餌・回復訓練業務
- ・放鳥獣業務
- ・その他上記業務に関連する業務

平成16年度予算：傷病鳥獣保護収容業務委託料6,300千円

人件費や餌薬品代、管理経費等から算定しております。

H15年度は、委託期間が8/12～3/31のため、日割り計算：4,010,653円